慶應義塾医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線(2136)
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　末吉　亮一
1部20日発行

第84回 慶應医学会総会挙行される

第12回 慶應ライフフォーラム併催

三四会奨励賞十名に授与

十月十二日午後三時より、鈴鹿医学賞が行われた「別館・鈴鹿医学ホール」において、平成十六年度の受賞者は慶應義塾大学病院呼吸器内科講師の清水信義氏に決まった。清水氏は、肺癌分野における一連の業績が評価されての受賞となった。

鈴鹿医学賞は、慶應義塾大学医学部の創設者である鈴鹿三七博士の遺徳を偲び、医学の発展に貢献した人物を顕彰するために、昭和四十二年に設けられた。賞金は五百万円。

清水氏は、肺癌の発生機構の解明、診断法の開発、治療法の開発など、肺癌の臨床・研究の両面において、多大な業績を挙げてきた。

特に、肺癌の発生機構の解明では、肺癌の発生母地である気管支上皮の異形成の研究において、肺癌の発生過程を明らかにした。

また、肺癌の診断法の開発では、喀痰細胞診の精度を向上させるために、喀痰中の癌細胞を検出する新しい染色法を開発した。

さらに、肺癌の治療法の開発では、肺癌の発生母地である気管支上皮の異形成に対する予防的治療の臨床試験を行い、その有効性を証明した。

清水氏は、これらの業績により、日本癌学会奨励賞、日本癌治療学会奨励賞、日本肺癌学会奨励賞、日本呼吸器学会奨励賞、日本臨床細胞学会奨励賞、日本胸部疾患学会奨励賞、日本癌治療学会学術賞、日本癌学会学術賞、日本肺癌学会学術賞、日本呼吸器学会学術賞、日本臨床細胞学会学術賞、日本胸部疾患学会学術賞を受賞している。

賞状を渡す末吉会長

十月十二日午後三時より、慶應義塾大学病院鈴木十一郎記念講堂において、慶應義塾大学医学部の教授会および大学学部・理工学部の兼任教授による第十二回慶應ライフフォーラムが行われた。続いて、三四会長よりの各々の受賞者に祝辞の言葉と記念品目録が贈呈された。

引き続いて、「慶應義塾大学医学部創立者 鈴鹿三七博士の業績」と題して、鈴鹿医学賞受賞者である清水信義氏（呼吸器内科講師）による記念講演が行われた。

次いで、「慶應義塾大学医学部創立者 鈴鹿三七博士の業績」と題して、鈴鹿医学賞受賞者である清水信義氏（呼吸器内科講師）による記念講演が行われた。

公開シンポジウム

"何故、今、腸の病気が注目されているのでしょうか"

日本学術会議臨床医学研究連絡委員会（金澤一郎委員長）主催の公開シンポジウムが十二月六日（後二時から慶應義塾大学において行われた。

今回は同時に慶應義塾大学医学部創立者鈴鹿三七博士の没後三十年にあたることから、鈴鹿医学賞受賞者の講演が行われた。

シンポジウムの開始にあたり、慶應義塾大学医学部長の安西祐一郎氏より、鈴鹿医学賞受賞者の清水信義氏（呼吸器内科講師）の紹介がなされた。

清水氏は、「肺癌の早期診断と予防」と題して、肺癌の発生機構の解明、診断法の開発、治療法の開発など、肺癌の臨床・研究の両面において、多大な業績を挙げてきた。

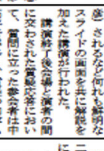
特に、肺癌の発生機構の解明では、肺癌の発生母地である気管支上皮の異形成の研究において、肺癌の発生過程を明らかにした。

また、肺癌の診断法の開発では、喀痰細胞診の精度を向上させるために、喀痰中の癌細胞を検出する新しい染色法を開発した。

さらに、肺癌の治療法の開発では、肺癌の発生母地である気管支上皮の異形成に対する予防的治療の臨床試験を行い、その有効性を証明した。

清水氏は、これらの業績により、日本癌学会奨励賞、日本癌治療学会奨励賞、日本肺癌学会奨励賞、日本呼吸器学会奨励賞、日本臨床細胞学会奨励賞、日本胸部疾患学会奨励賞、日本癌治療学会学術賞、日本癌学会学術賞、日本肺癌学会学術賞、日本呼吸器学会学術賞、日本臨床細胞学会学術賞、日本胸部疾患学会学術賞を受賞している。

岡野栄之教授（生　62回）日本医師会医学賞受賞



会員学術奨励賞、去る十一月一日、日本医師会本部において、日本医師会主催による日本医師会創立記念賞授与式・受賞記念講演会が行われた。今年の対象となったのは、「成人脳における神経幹細胞の同定と中枢神経疾患治療への応用」の研究課題で、岡野栄之教授（生　62回）が受賞された。

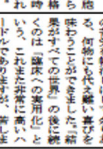
岡野教授は、RNA結合性蛋白質Musashi-1を指標として、成人脳に内在する神経幹細胞が存在することを世界に先駆けて明らかにし、さらにこれを単離することにより、神経幹細胞を生体から光の照射によって可視化・同定し、セルソーターを用いて分離する技術を開発した。この研究成果を用いて神経疾患の病態解明と治療法開発に対してなされた業績が評価されての受賞であり、岡野教授は、成人脳に内在する神経幹細胞を単離し、この細胞の基礎研究の受賞である。本年度の受賞者は、京都大学大学院医学研究科の中辻憲夫教授と名古屋市大医学部の岡野栄教授の二名であった。

受賞者とその業績

【基礎医学分野】

Implantation of Dendritic Cells in Injured Adult Spinal Cord Results in Activation of Endogenous Neural Stem/Progenitor Cells Leading to De Novo Neurogenesis and Functional Recovery

整形外科学教室　三上　裕嗣



当時、日本の臨床医は脊髄損傷の患者さんを治療するにあたって、手術をしても治らないことが多いことに悩んでいました。これはどの医学の進歩にも関わらず手術成績が向上しないのは、根本的な治療法がないからだと考えました。

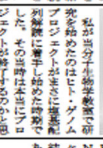
そこで、神経再生の研究を始めたのですが、当時は神経細胞は一度死んでしまうと再生しないと言われていました。しかし、それは生まれた後の話であって、胎生期の神経細胞は盛んに増殖し、神経突起を伸ばして正しい神経回路を作っていることを知りました。

そこで、胎生期の神経細胞を脊髄損傷部に移植すれば、神経回路を再構築できるのではないかと考えました。

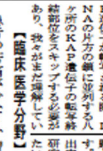
しかし、それは生まれた後の神経細胞の話であって、胎生期の神経細胞を生まれた後の脊髄に移植しても生着しないのではないかと言われました。

そこで、胎生期の神経細胞を生まれた後の脊髄に移植しても生着するような環境を作ればよいと考えました。

そこで、胎生期の神経細胞を生まれた後の脊髄に移植しても生着するような環境を作ればよいと考えました。

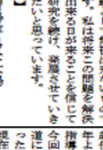


私は慶應義塾大学に移植しました。

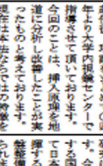


神経幹前駆細胞の可視化・分離・移植

生理学教室　清木　和延

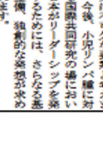


私は慶應義塾大学に移植しました。



神経幹前駆細胞の可視化・分離・移植

生理学教室　清木　和延

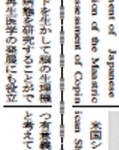


私は慶應義塾大学に移植しました。

神経幹前駆細胞の可視化・分離・移植

生理学教室　清木　和延

渡邉義信（精　特78回）君　茅野　分（精　博3年）君　JSOP/WASP AWARD 賞


渡邉義信君

茅野　分君

十月二十日から二十七日まで、第十八回国際老年医学会議（International Congress of Gerontology）が、米国シカゴ市で開催された。

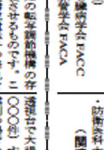
渡邉義信君（精　特78回生）が「Overexpression of Jagunal Homolog (Drosophila) 1 (JAGN1) Extends Lifespan and Promotes Neurogenesis in the Mammalian Brain」の演題にて、茅野　分君（精　博3年）が「Aging and Schizophrenia: Is Psychosis a Premature Aging Disease?」の演題にて、それぞれ口演発表を行い、関係者の注目を集めた。

渡邉義信君は、老化研究の分野において、世界的に著名なJohn Sinclair Sohngen賞を受賞した。

茅野　分君は、統合失調症の病態解明に関する研究を行っており、今回の研究成果が評価されたものである。

（慶應義塾大学医学部老年医学教室）

奥田　稔氏（内　39回）米国ショック学会誌編集顧問



米国ショック学会（American Shock Society）から、奥田稔（内　39回）氏が同学会誌の客員編集顧問に任ぜられた旨の通知があった。

略歴

・昭和35年慶大医学部卒（内科）
39歳
・米国心臓病学会（FACC）
・米国胸部疾患学会（FCCP）
・北米神経科研究発表会（Stroke）
・Zeta Xi Society
・Phi Beta Kappa
・Thomas Jefferson 大学客員教授
・日本医学会評議員
・慶應義塾大学医学部教授
・防衛医科大学校教授

（慶應記事4面）

実験動物慰霊祭

十月十五日（金）午後、時、共同動物実験施設を利用している各研究室の実験動物慰霊祭が、動物実験センター隣にある小祠の前で、医学の発展のために犠牲になった動物の霊を慰めるために行われた。

実験動物の霊の冥福を祈る研究者達

小児未分化大細胞性リンパ腫に対する標準治療の確立を目指して

小児科学教室　講師　森　鉄也

未分化大細胞リンパ腫は、一九八〇年代半ばにその疾患概念が提唱された比較的歴史の浅いリンパ腫です。

お願い
教室の人事消息、主催する行事など、三四会員への弘報として適当と思われる掲載をお希望の方は、「三四会」の編集室をお訪ね下さるか、または電話にてお知らせ下さるようお願いいたします。
編集室

訃報

生前に医療機関の機能分類の設定に際し尽力された日本医師会の顧問、前東京慶應病院長、名誉教授　田村外男（享年　歳）

人の動き

【慶應義塾大学病院】

【慶應義塾大学医学部】

【慶應義塾大学病院】

岡野栄之教授（生　62回）日本医師会医学賞受賞

会員学術奨励賞、去る十一月一日、日本医師会本部において、日本医師会主催による日本医師会創立記念賞授与式・受賞記念講演会が行われた。今年の対象となったのは、「成人脳における神経幹細胞の同定と中枢神経疾患治療への応用」の研究課題で、岡野栄之教授（生　62回）が受賞された。

岡野教授は、RNA結合性蛋白質Musashi-1を指標として、成人脳に内在する神経幹細胞が存在することを世界に先駆けて明らかにし、さらにこれを単離することにより、神経幹細胞を生体から光の照射によって可視化・同定し、セルソーターを用いて分離する技術を開発した。この研究成果を用いて神経疾患の病態解明と治療法開発に対してなされた業績が評価されての受賞であり、岡野教授は、成人脳に内在する神経幹細胞を単離し、この細胞の基礎研究の受賞である。本年度の受賞者は、京都大学大学院医学研究科の中辻憲夫教授と名古屋市大医学部の岡野栄教授の二名であった。

渡邉義信（精　特78回）君　茅野　分（精　博3年）君　JSOP/WASP AWARD 賞

渡邉義信君

茅野　分君

十月二十日から二十七日まで、第十八回国際老年医学会議（International Congress of Gerontology）が、米国シカゴ市で開催された。渡邉義信君（精　特78回生）が「Overexpression of Jagunal Homolog (Drosophila) 1 (JAGN1) Extends Lifespan and Promotes Neurogenesis in the Mammalian Brain」の演題にて、茅野　分君（精　博3年）が「Aging and Schizophrenia: Is Psychosis a Premature Aging Disease?」の演題にて、それぞれ口演発表を行い、関係者の注目を集めた。

渡邉義信君は、老化研究の分野において、世界的に著名なJohn Sinclair Sohngen賞を受賞した。

茅野　分君は、統合失調症の病態解明に関する研究を行っており、今回の研究成果が評価されたものである。

（慶應義塾大学医学部老年医学教室）

奥田　稔氏（内　39回）米国ショック学会誌編集顧問

米国ショック学会（American Shock Society）から、奥田稔（内　39回）氏が同学会誌の客員編集顧問に任ぜられた旨の通知があった。

略歴

・昭和35年慶大医学部卒（内科）
39歳
・米国心臓病学会（FACC）
・米国胸部疾患学会（FCCP）
・北米神経科研究発表会（Stroke）
・Zeta Xi Society
・Phi Beta Kappa
・Thomas Jefferson 大学客員教授
・日本医学会評議員
・慶應義塾大学医学部教授
・防衛医科大学校教授

（慶應記事4面）

実験動物慰霊祭

十月十五日（金）午後、時、共同動物実験施設を利用している各研究室の実験動物慰霊祭が、動物実験センター隣にある小祠の前で、医学の発展のために犠牲になった動物の霊を慰めるために行われた。

実験動物の霊の冥福を祈る研究者達

小児未分化大細胞性リンパ腫に対する標準治療の確立を目指して

小児科学教室　講師　森　鉄也

未分化大細胞リンパ腫は、一九八〇年代半ばにその疾患概念が提唱された比較的歴史の浅いリンパ腫です。非ホジキンリンパ腫のひとつです。私がこの疾患に初めて出会ったのは一九九五年のことでした。当時、国内において同疾患に関する情報はほとんどなく、治療法も確立されていませんでした。厚生労働省の研究班においても、少子悪性腫瘍分科会の中で、この疾患に関する研究が行われていましたが、厚労省の本年七月二十日の班会議にて、この疾患は小児悪性リンパ腫に含めて扱うことになりました。

お願い
教室の人事消息、主催する行事など、三四会員への弘報として適当と思われる掲載をお希望の方は、「三四会」の編集室をお訪ね下さるか、または電話にてお知らせ下さるようお願いいたします。
編集室

訃報

生前に医療機関の機能分類の設定に際し尽力された日本医師会の顧問、前東京慶應病院長、名誉教授　田村外男（享年　歳）

人の動き

【慶應義塾大学病院】

【慶應義塾大学医学部】

【慶應義塾大学病院】

地域医療支援病院と病診連携

三〇%以上の医療機関に対しては、紹介率八〇%のほか逆紹介率五〇%＋紹介率三〇%もしくは紹介率五〇%＋逆紹介率八〇%でもいずれも満たすことが行われるが、同時に事業に関連する医療機関に対しては、地域医療支援病院としての役割を担うことが求められた。その手続きは、慶應義塾大学病院が神奈川県内に設置されているが、東京都に設置された地域医療支援病院として北部病院が、ダイヤルセンター病院に続いて、けいゆう病院が神奈川県内最初の承認を受けた。

慶應病院は、昨年七月一日に横浜市民病院より一月八日に地域医療支援病院としての認可を受けた。

この地域医療支援病院の特徴は、地域医療連携室を設置していることが挙げられる。

受賞者とその業績

【基礎医学分野】

Implantation of Dendritic Cells in Injured Adult Spinal Cord Results in Activation of Endogenous Neural Stem/Progenitor Cells Leading to De Novo Neurogenesis and Functional Recovery

整形外科学教室　三上　裕嗣

当時、日本の臨床医は脊髄損傷の患者さんを治療するにあたって、手術をしても治らないことが多いことに悩んでいました。これはどの医学の進歩にも関わらず手術成績が向上しないのは、根本的な治療法がないからだと考えました。

そこで、神経再生の研究を始めたのですが、当時は神経細胞は一度死んでしまうと再生しないと言われていました。しかし、それは生まれた後の話であって、胎生期の神経細胞は盛んに増殖し、神経突起を伸ばして正しい神経回路を作っていることを知りました。

そこで、胎生期の神経細胞を脊髄損傷部に移植すれば、神経回路を再構築できるのではないかと考えました。

しかし、それは生まれた後の神経細胞の話であって、胎生期の神経細胞を生まれた後の脊髄に移植しても生着しないのではないかと言われました。

そこで、胎生期の神経細胞を生まれた後の脊髄に移植しても生着するような環境を作ればよいと考えました。

私は慶應義塾大学に移植しました。

神経幹前駆細胞の可視化・分離・移植

生理学教室　清木　和延

私は慶應義塾大学に移植しました。

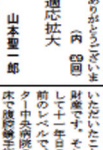
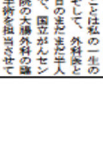
神経幹前駆細胞の可視化・分離・移植

生理学教室　清木　和延

私は慶應義塾大学に移植しました。

神経幹前駆細胞の可視化・分離・移植

生理学教室　清木　和延

【臨床医学分野】

患者の苦痛が少なく、習得容易な大腸内視鏡挿入法（浸水法）の開発